

福島県の復興を支援する共同メッセージ ～福島県の未来をともに創るために～ (案)

東日本大震災と原子力発電所事故から 14 年半が経過しました。震災以降、福島県は、幾多の困難を乗り越え、復興と創生に向けて着実に歩みを進めてきました。

九都県市は、これまで、首脳会議での復興を支援する共同宣言や国への要望の発出に加え、福島県の意向を踏まえながら、職員派遣や県産品・観光の P R 等、様々な形で支援を続けてきました。

しかしながら、今なお約 2 万 4 千人の方々が避難生活を続けておられるほか、一部の国・地域では福島県産食品の輸入規制が続くなど、依然として、避難地域の復興・再生や廃炉と汚染水・処理水対策、根強い風評や震災の記憶の風化といった福島県特有の課題が山積し、復興の道のりはいまだ途上です。

令和 8 年は、福島県政 150 周年を迎え、また、震災から 15 年、そして平成 28 年に福島県で九都県市首脳会議を開催してから 10 年という大きな節目でもあり、私たちにとっても深い意味を持つ年となります。

九都県市首脳会議は、福島県の復興・創生の実現に向けて、今後も連携して支援を続けていきます。

令和 7 年 10 月 31 日

九都県市首脳会議

座 長 横 浜 市 長
埼 玉 県 知 事
千 葉 県 知 事
東 京 都 知 事
神 奈 川 県 知 事
川 崎 市 長
千 葉 市 長
さいたま市長
相 模 原 市 長

山 中 竹 春
大 野 元 裕
熊 谷 俊 人
小 池 百 合 子
黒 岩 祐 治
福 田 紀 彦
神 谷 俊 一
清 水 勇 人
本 村 賢 太 郎